横断歩道では 渡りたい あいず 合図で 手のひらと 目で 安全横断!

横断歩道を渡るときに、運転者に「渡りたい意思」を伝えるには、「合図」をすることが効果的です。
しかし、例えば子供に、単に「手をあげる」ことだけを指導すれば、「手をあげさえすれば安全だ」と思い込んだり、安全確認（「止まる」「見る」「待つ」）が疎かになり、かえって危険な横断になりかねません。
横断歩道の安全な渡り方について、日常生活の中で時間をかけて、子供に繰り返し教えましょう。

横断歩道の安全な渡り方

止まって

道路に飛び出さない

よく見て

大事

周りの安全をよく確認する

車両を運転する時には、横断歩道の人や合図を見逃さないで！

合図して車が止まるのを待つ

運転者に手のひらと顔を向けて合図する

止まった運転者とアイコンタクト（確認）

運転者と目を合わせる

走らずまっすぐ渡ろう

他の車やバイク、自転車に注意する

京都府警察

子どもを守るのは大人の責任です！

車に乗せるときは…

チャイルドシートは正しく取り付けることで、本当の効果が発揮されます。取付け時には、取扱い説明書などをよく確認するとともに、定期的に点検するようにしましょう。

シートベルトは、概ね140cm以上の身長を想定して設計されています。

シートベルトが、安全に使用できる身長になるまでは、チャイルドシート（ジュニアシート）を使用しましょう。

自転車を利用するときは…

自転車は転倒しやすい乗り物です。

大切な頭部を守るために、自転車用ヘルメットを正しく使用するとともに、シートベルトを確実に締めましょう。

自転車事故により、死亡したり後遺障害が残ったりする主な原因は、「頭部損傷」によるものです。

サイズの合ったヘルメットを着用させ、あごひもをしっかり締めるよう指導しましょう。

外で歩くときは…

「危ない！」と感じた時に子どもを守ることができなければ、「保護している」とは言えません。

道路や、駐車場などでは、手をつなぎ、一人歩きさせないようにしましょう。

子どもは、抽象的な言葉かけでは伝わらないことがあります。「気を付けてね！」だけでなく、「何に気を付けるのか」「気を付けるためには何をするのか」など、具体的に指導しましょう。

「気が狂いそうになる思いで日々を過ごしております。」

これは、交通事故でお子さんを亡くされたご遺族（母親）の言葉です。

子ども達を交通事故から守るために、できることはたくさんあるはずです。

どうか、保護者の皆様、この言葉の重みを、今一度考えてみてください。

子ども達にとって、保護者の影響力は大変大きいものです。子ども達を交通事故から守ることはもちろん、**自身が子ども達の見本となるような行動**を心がけましょう。